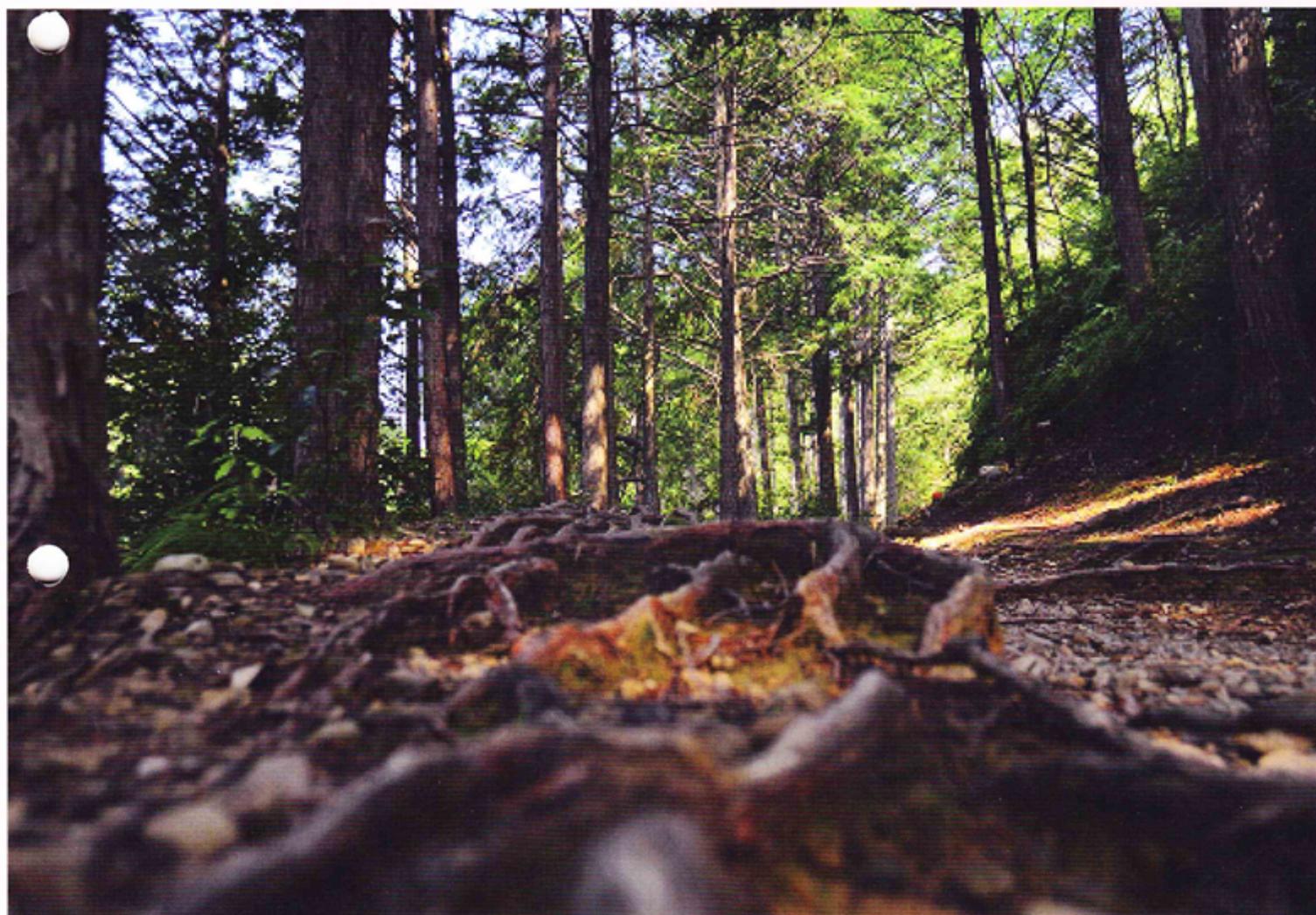


関西 学友会



2011

ロータリー米山奨学生学友会(関西)



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

27

Table of Contents

Table of Contents	2
二年目を迎えて	3
米山学友会関西の皆様へ	4
来日して自分の国と違うなと思ったこと	4
私の夢について	5
違うのは当然	5
来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと	6
来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと	7
来日して自分の国と違うなと思ったこと	8
私の夢	8
My Dream in Future	9
私の夢	10
私の夢	10
心を開いて、勇気を出して、真の異文化理解へ	11
ロータリー米山奨学生学友会(関西)2009年度会計収支決算報告書	13
ロータリー米山奨学生学友会(関西)2010年度会計予算(案)	13
相談コーナー	14
学友消息(2009～2010年度)	14
活動報告	14
リンク集	14
編集後記	15
募集要領 (2011年度会報)	15

二年目を迎えて

国際ロータリー第2660地区 米山奨学生学友会(関西) 会長

朴 日

(元世話クラブ：大阪東淀ちややまちRC)



国際ロータリー第2660地区 米山奨学生学友会(関西) の会長に就任してから2期目を迎えました。

皆様からの信頼に応えるように頑張りたいと思います。

会員の皆様をはじめ、ロータリアンの皆様に支えられ、本当にありがとうございました。

ご存知のように、当学友会は元米山奨学生の組織として設立され、元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進すると共に、国際親善及び世界の平和に寄与することと、財団法人ロータリー米山記念奨学会の事業の発展に寄与することを目的としております。

今後も学友会の設立目的達成のために引き続き努力したいと思っております。

さて、米山奨学金ですが、今年もたくさんの留学生が米山奨学金を受給することになりました。奨学生は金銭面での支援だけではなくカウンセラー制度を利用していろいろなケアを頂いて、学業に専念するように支援を頂いております。

奨学金受給生は皆様の期待に応えるように頑張っていたいただければ、大変うれしいです。

最近学業を終えて帰国する留学生が増えております。今後、海外の学友会とのつながりを強化して帰国する元奨学生とのOBとの交流を続けられるように支援したいと思っております。

留学生の進路をアンケートして、本国の学友会の情報を積極的に提供して繋がりを強化したいと思っております。

去年は、台湾在住のOBとの交流会を企画しておりましたが、いろいろな事情で実現できませんでした。今後可能な限り海外OBとの交流会を企画して、さまざまな情報交換ができ、お互いにいい刺激になっていただけるといいと思います。

皆さんが仕事、生活などで多忙であることを認識しております。

一言でも皆様におかれましては、当学友会の使命につきまして特段のご理解をいただき、今後の維持、発展にご支援を賜りますようお願いいたします。

【知識】

[ロータリーの誕生]

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、シカゴに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。こうして1905年2月23日にロータリークラブの原点となるシカゴロータリークラブが誕生しました。ロータリーとは、会員が持ち回りで順番に、集会を各自の事務所で開いたことから名付けられました。

それからは志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれ、国境を越えて、今では世界166ヶ国の地域に広がり、クラブ数 32,176、会員総数 1,214,127人(2004年12月31日RI公式発表)に達しています。そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

米山学友会関西の皆様へ

地区米山奨学委員会 委員長

磯田郁子

(大阪東淀ちゃやまちRC)



米山記念奨学会は現在まで15,776人の留学生に対して奨学金を支給し、支援してきました。その奨学生のOB・OGの皆様が母国に戻り、または日本に残り学友会という組織でロータリーの精神を受け継ぎ、活動をされていることを心からうれしく思います。

留学先にこの日本を選び、この日本で勉強、研究し、立派に活躍されている皆様が本業の傍ら、このように学友会活動をされていることは、皆様が米山奨学生としてロータリーの活動をそばで見、一緒に体験したことによって奉仕する心を学んでくださったからにはほかならないでしょう。日本には留学生を支援する奨学金はたくさんあります。

しかしこの米山記念奨学金制度はそれら多くの奨学金制度と違って、単に金銭的な援助をするだけではなく、奨学金の支給を通じて、ロータリアンと留学生、日本とそれぞれの母国をつないでいるのだと思います。

奨学金受給の期間が終わっても、このロータリーとの出会い、カウンセラーをはじめとするロータリアンとの出会いを大切に、皆さんの今後の人生の糧にしていきたいと思います。私達ロータリアンは皆さんとの出会いで新たな気づきがあり発見があります。

この米山記念奨学金制度が日本の平和、世界の平和のために今後も大きな力となることを願っています。

来日して自分の国と違うなと思ったこと

大阪産業大学院
経営・流通研究科

金到映(韓国)

(世話クラブ：東大阪みどりRC)



私は韓国のソウルからまいりました金到映と申します。今は大阪産業大学院の経営・流通研究科で勉強しています。現在修士2年生で、博士課程も準備しています。将来は大学の教育に旨をおいています。

私は韓国で1997年2月大学を卒業して来日する前まで7年間働いた社会人でした。私が卒業したその年の11月から韓国は為替保有高の不足で

IMF(International Monetary Funds;国際通貨基金)が訪れました。その当時の韓国の経済は最悪で様々なことがありましたものの、とりわけ企業の不渡りが多いでした。その結果、就職問題や職場退職などの失業の問題は大変でした。私はIMFを肌で直接に経験した世代であると言えます。

日本の会社の内定者について初めて接したことが10年前の事で、その時はまだ韓国はIMF時代でした。韓国に留学を来た日本の友達が内定されたけど、文化人類学を専攻していたので、わざわざ韓国に1年位留学しに来たそうです。その時一般企業の内定者という言葉は始めて聞きました。

韓国は日本と違って一般企業が前もって内定者を決めるシステムはありません。日本は大体3回生から就職活動をして内定され、4回生には残る学生生活を思う存分味わうみたいです。韓国は入社資格基

準は卒業予定者であります。日本のように3回生を採用して1年も待つ会社はありません。もちろん現在は時代が変わって全世界的に大変ですので日本も内定者の取り消しもたまに起こりますが、この内定者というのは韓国と違う文化であると思います。

二つ目は、小学校であります。大阪も地域ごと違うと思いますが、私が知っている何箇所小学校は各学年に班の数が2-4班しかありませんでした。韓国には大体に各学年が7-10班であります。もちろん少子高齢化社会の影響もあると思いますが、韓国と比べると不思議であると思います。しかし、心に残ったのは小学校の運動会であります。韓国は運動会を平日に行うので、共働きをしている親は往々参加できない場合が多くて子供が傷つくそうです。しかし日本は運動会を大体的に日曜日に行われ、学校は平日に代休を取っています。日曜日に行われるので、子供たちの運動会を親と一緒に参加できるので、教育的な相当良いシステムであると思います。

これだけではなく、日本と韓国の文化の相違は沢山存在していると思います。ある国の文化が良いか良くないかを定める事より、広い視野でその国の文化を包容する心を持つことが何より重要ではないでしょう。

私の夢について

関西大学
商学専攻

施筱薇 (台湾)

(世話クラブ：大阪中之島RC)



私は台湾から来ました。施筱薇と申します。2007年の秋、日本に来ました。現在、関西大学商学研究科で在学中です。私の夢は色々な国々を自分の目でみて、たくさんの人々に自分の体験・感想を伝えてゆきたいことです。現実には日本以外、旅行した国は少なく、まだ行ってみたいところがいっぱいありますけれど、留学先の日本で少しずつでも自分の夢に向かって進んでゆきたいと思います。

私は、夢を実現するために、チャンスを見逃したくなく、何でも挑戦したいです。例えば、自分はマーケティングマネジメントを専攻していますので、よく外国の雑誌などが、企業やブランドなどに取材したいときには「協力してください。」という声がよくかかります。2010年10月2日は日本の「豆腐の日」なので、ある香港の雑誌社が「京都豆腐」を満載する特集をするそうで、歴史のある京都の豆腐の美味しさと、奥深さを、香港の人々にもっと知ってもらえるよう、取材のため日本に来る予定がありました。その雑誌社の編集者に依頼されました。実は私、去年「老舗の活性化」についての授

業を受けましたので、すごく関心を持ち、また今回の仕事を受けましたら、自分の夢も少し進んでゆくではないかと思えますので、この依頼を受けました。

仕事の4日間、私は雑誌の編集者が、京都の豆腐の老舗店にインタビューして、企業理念や市場戦略について取材する時にも同行・協力していました。たった4日間では、日本の歴史の長い老舗を理解するには短いですが、今回のチャンスで、日本伝統的な食文化を代表する食材「豆腐」のこだわりや、日本京都老舗の一期一会の心意気を感じて学べることがかなりいい経験で、また香港の人々に私が四年間生活してきた日本の素晴らしさを紹介することができて、本当によかったと思います。

日本に来てから、毎日が新しい事を発見し、知らないことばかりで、最初は本当に不安だったですけど、充実した日々を送れている今を大切し、たくさん体験をして、味のある人になりたいと思います。今、旅行とレジャーの雑誌に携る仕事が偶に出来ていることはすごく幸せだと思ひ、夢の実現に少し近づいているのではないのでしょうか。

違うのは当然

大阪産業大学

大学院工学研究科 アントレプレナー専攻

コン ユンス(韓国)

(世話クラブ：新大阪RC)



私は、大阪産業大学、大学院でアントレプレナーという学問を勉強しています。アントレプレナーは、工学を専門した人に経営を教える学問です。日本に留学して4年目になりますが、今までの感じた文化的な違いに対する考えを述べたいと思います。

最近、ニュースや新聞などで「世界はグローバル化とされている」という話をよく耳にする。グローバル化というのは、「世界」を一体的なシステムと考え、主権国家を必ずしも前提としていない。つまり、そもそも文物の国境通過は必ずしも監督すべき事項ではなく、そこにおいて秘匿性を保持することが、前提となる価値観のひとつとして重要視されるのである。確かに、科学や通信分野などの技術の発展により、現代社会は経済や文化など様々な分野でグローバル化されているのだ。しか

し、それは本当に「グローバル化」されているのだろうか。来日4年目になる今こそ、そのような疑問になるのだ。

日本文化の輸入を反対していた韓国政府は、1998年日本文化の輸入を許可した。当時日本のアニメに興味があった僕にとって、日本文化の開放は新鮮な衝撃であり、日本という国をより親しく感じるきっかけでもあった。そして、日本が知りたくなかった僕は、日本の留学を決めた。当時31歳のことであった。

日本について結構知っていると思っていた僕だったが、やはり実際に来てみれば本や雑誌の内容とは違いが多く、大変驚いた。例えば、食事のマナー(韓国では、音を出しながら食べると失礼だが、日本では、麺類を食べる際、音を出しながら食べるのがおいしい

食べ方である)などがある。しかし、そのような外面的な違いは、時間が経つにつれて、慣れるようになった。本当に「違い」を感じたのは、内面的なものであった。一つ例を挙げると、国民健康保険に関して相談をするために区役所に行った時であった。当時10人ほどが待っていたが、誰も待つことに文句を言わない。しかも、区役所の人、落ち着いてゆっくり仕事をしているのだ。もし、韓国で同じ状況が起きたとすれば、お客さんから文句があったのはもちろん、文句が出る前に役所の人素早く仕事を済ましたと思う。その時、仕事の速さより、正確さを認めている日本人の民族的な性格を感じたのであ

る。

このように、文化の違いというのは当然のことだと思う。なぜなら、各国の民族的な特徴や慣習、思想などは違うからである。その当然なことを「なぜ違うの?」というふうに疑問を持つより、理解しようという姿勢こそが、現代社会で必要とされるグローバリゼーションではないだろうか。簡単なことのようにみえるかもしれない。しかし、世界のグローバリゼーションの中で生きている一人として忘れてはいけない大切なものだと思う。

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

関西大学

総合情報学部 総合情報学科

KHIN MYO HTIKE(ミャンマー)

(世話クラブ：大阪北梅田RC)



ミャンマー出身のキンミョータイです。関西大学総合情報学部にも所属して、超高速通信デバイスの開発の研究をしています。私は2006年4月に来日して早くも5年たちました。5年間日本に生活して、自分の国と違うなと思ったことは沢山ありました。日本とミャンマーは同じアジアの国であっても独自の文化と習慣を有しています。お互い違う文化を持ちながら親交の深い国でもあります。

最初、違うなと思ったのは気持ちの伝え方です。日本には挨拶の言葉として「お早うございます」、「こんにちは」、「こんばんは」とお礼の言葉である「有り難うございます」などがあるように私の国にもあります。しかし、私の国にはそうした言葉はあまり使われていないです。「言葉にしなくても分かっている」と思い込んでいるからです。それはトラブルの原因になりお互いの関係の悪化になりかねないため、気持ちを言葉にして伝えた方がいいと思います。

次は時間についての認識の違いです。日本人は時間に厳しい、時間を守るのに対して、ミャンマー人は時間に緩いです。小学校の授業で時計の見方の勉強をする時も、日本では何時、何分、何秒まで勉強しますが、ミャンマーでは何時と何分の見方だけ勉強するのです。つまり細かいことは気にせず、友達との待ち合わせもお昼ぐらいと大雑把です。公共交通機関も時間通りではなく一時間の遅刻も珍しくな

いです。インフラ整備が良くないことも原因の一つであります。

次、違うなと思ったのは、食文化についてです。日本とミャンマーは同じくお米を主食とする国です。ミャンマーのお米はタイマイで日本のお米と違うのです。料理もほとんど火を通して作るのが多く、生ものを食べる習慣がありません。そして一番驚いたのは、冷やして食べる習慣です。ミャンマーの料理は暖かい中に食べるのは普通であり、冷めてる料理を食べる習慣はありません。日本では夏に冷やして食べる食べ物が沢山存在することに驚きました。

次はファッションの違いです。日本に来る前に日本人のイメージとして着物を着ていると思ったのですが、実際には着物を着ている人はほとんど居なく、サラリーマンはスーツで一般の人々もお洒落に感じました。日本は四季があって季節ごとにお洒落を楽しんでいると思います。ミャンマーは日本と違って伝統的な服がほとんどです。それは、ミャンマーには3つの季節があって、年中暑いので、通気性のいい伝統的な服の方が一番適切だからです。

日本とミャンマーは文化や習慣違ってもお互い理解しあって協力しあって、より良い関係を築けることができればいいなと思います。日本の良いところを沢山勉強し、ミャンマーに広めていきます。

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

大阪市立大学大学院
グローバルビジネス専攻

範怡琳(中国)

(世話クラブ：大阪阪南RC)



日本に来て、いろいろな国の留学生とも交流しましたが、日本人は他の外国人と比べて、変だなと思ったことがあります。

来日してすぐの時、知り合いの日本人が描いたきれいな絵があったので、私は「この絵がきれいですね。絵を描くのは上手ですね」というと、その日本人は「そんなことないですよ」という返事でした。こんな時中国人なら「謝謝」と言います。アメリカ人なら「サンキュー」と言うはずですが、日本人は褒めてくれたことに対して「ありがとう」と言わないのでしょうか。日本人はプレゼントをくれるとき「つまらないんですけど」と言います。その時、私はどのように返事すればいいのか困ります。

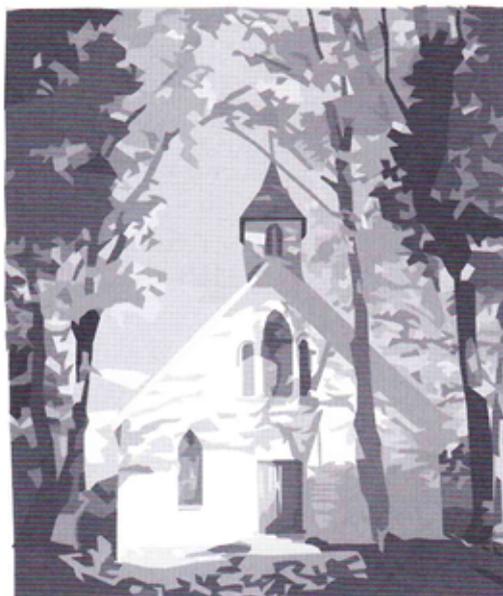
またある時のことですが、日本人と車で旅行をしました。その人は高速道路のサービスエリアで財布を無くしてしまいました。次の日にそのサービスエリアに電話したところ、財布は落とし物として預かっていてくれました。しかも財布の中のお金やカードは元通りありました。私はそれを聞いて信じられなかったことと、日本人は素敵だなと思いました。

私の好きな言葉に「四知」があります。「天知、

地知、子知、我知」、後漢の時代、夜中に二人きりになったときに楊震に賄賂を渡そうとしたところ、「天も見ている。地も見ている。悪事はいつかはばれる」といって賄賂を受け取らなかった話ですが、私は誰も見てないからといって悪事をしてはいけないと捉えています。「渴いても盗泉の水を飲まず」という言葉もありますが、そういうことが普通に実際行われていることが日本人のすばらしいところだと思います。

残念なことですが、私の国では日本人は決して良いようには思われていません。私たち留学生は、本国に帰って、そのような誤解をしている人を少なくしていかなければなりません。これは、日本でお世話になったことに対する最低限の使命だと思います。

日本で北京オリンピックの成功や上海万博の盛況をみて、中国も豊かになったことを感じます。管子に「衣食足りて礼節を知る」という言葉があります。私は、日本人のすばらしいところを伝えていくとともに、中国人が経済だけでなく内面的なことまでも世界に肩を並べられ、「中国人はすばらしいですね」といわれるよう頑張っていきたいと思います。



来日して自分の国と違うなと思ったこと

大阪日本語教育センター

張仲凱(中国)

(世話クラブ：大阪平野RC)



私は中国の青島から参りました張仲凱と申します。一年前に来日し、現在大阪日本語教育センターで日本語を勉強しております。

私は子供の時から、コンピューターのことが好きで、特にソフトウェアについての開発工程にとっても興味を持っています。幼い頃、詳しい技術知識が全然わからない私にとってはコンピューターの操作や組み立てなどがすべて謎でした。この謎を解くために自分で図書館へ行って本を読んだり、専門の先生に聞いたりしました。段々コンピューターの基礎操作ができ、自分でコンピューターを組み立てることができるようになりました。その時、コンピューターでどうやってソフトがうまく動かせるかという質問には私の好奇心が引き起こされました。

この好奇心をきっかけに、国の大学でコンピュータープログラミングを専攻しました。その三年間に専門知識を勉強したり、関連分野の知識を身に付けたりしました。多くの知識を積んだ後もまだソフト開発ができなかったのです。その時、先生に「アジアですべてのソフト開発は日本が中心として開発しています。もし機会があれば、一度日本に見学に行ってみたほうがいい」と言われました。そして日本は世界で第二の経済大国であり、高い技術を持つ先進国です。先生の話をつきかけに私は日本に留学するこ

とを決意し、さらに自分の夢も見つかりました。将来、日本で習った知識を生かして自分のソフトを通して世界の人々を繋げたいと思っています。

大学で専門分野の本が理解できるようになるために、今日本語学校でしっかり日本語を勉強しています。そして、多くの国の友達に出会い、日本文化だけではなく多くの国の文化や習慣なども理解できました。また、今年の四月からはロータリー米山奨学生になり、非常に光栄です。ロータリークラブの先生方が色々な面倒を見てくださり、進学相談だけではなく、私の生活も支援してくださっています。そして、ロータリークラブの例会や活動を通じて、色々な経験を積み、人々の間の絆が一番大切だと思いました。自分の幸せを周りの人にも分け与えれば、すべての人が幸せになります。人々が繋がってお互いに助け合うのは大事なことなのです。

最近、大学受験をもう終え、来年四月に帝塚山大学の経営情報学部編入することになりました。入学後は情報分野の勉強を通して、国で習った専門知識を広げ、自分の興味がある経営学に専念したいです。これからの大学での留学生活は色々大変なことがあると思いますが、私は諦めずに、自分の夢へ向かって、一生懸命頑張ります。

私の夢

大阪大学

工学部 電子情報工学科

システム制御-電力コース

チャンホアミン(ベトナム)

(世話クラブ：箕面中央RC)



ベトナムから来たチャンホアミンで常に好奇心や向上心をもつ人間である。新しい物・事を知りたい、挑戦したいという気持ちを小さい頃から持ち続けている。世界でも独特の文化・歴史をもち、また、世界のトップに立つ最新技術を持っている日本を高校時代からよく耳にしていた。それで日本に興味を持ち、日本への留学を考え始めた。

現在ベトナムは発展途上国なので経済力と技術は世界と比べてまだ低いレベルである。今地球温暖化が進みによりグリーンエネルギーは欠かせない物に

なったが、ベトナムはその技術が遅れていて、研究施設も足りない。それで、この領域に力を注ぎたい私は世界のトップの国に留学しようと思っていた。

私は小さい頃から日本という国や人に憧れていた。理由は、日本は世界でも独特の文化・歴史をもつ。また、世界のトップに立つあらゆる技術を獲得しているからである。私は留学の準備するためにドンズー日本語学校に入って日本語を学んでいた。そして映画「ラストサムライ」を見て日本人の忠誠心と諦めない心がいいと思った。そのきっかけで日本に留学することが

夢だった。日本に興味を持ち、もっと調べたら日本の新幹線が面白くて便利である。新幹線のスピードだけではなく自動改札なども効率的に使っていると知っていた。このような科学技術を学びたいので日本に決めた。日本へ留学して日本にしかない技術や学問や文化を学びたい。将来、私は大学院に進学してから得た知識を磨くために日本の中小企業に勤めたいのである。なぜ大規模な会社ではなくて中小企業だろうか。それは小さい会社で社員が少ないから一人の社員は色々な役割を担わなければならない。そのため、より多く分野に触れ合い、色々な領域に挑戦でき、一つ一つ大切な経験が積み重ねられると考えている。

現在ベトナムは電気をはじめエネルギーが不足しており、経済の発展に影響を与えている。私はこの問題を解決することに力を尽したいと考えているので日本の最先端技術を身につけ、そして、いずれは母国に帰って、将来グリーンエネルギーに関する企業を起こし、エコな社会に貢献したいと思っている。

その他、私の名前はHOA、漢字で「和」と書く。「和」という字を見るとなんと日本との縁があり、この縁を持ち続け、日本人・ベトナム人双方の理解を深めると共に両国を発展するように努力したいと考えます。

My Dream in Future

大阪大学
言語学

朴東哲 (韓国)

(世話クラブ：大阪城南RC)



私は、大阪大学で言語学を勉強している朴東哲と申します。4年程前に日本に来てから、日本について様々なことを学び、また色々と考えさせられました。その中から、私が勉強している言語学という観点から、自分の国と異なると感じたことを書かせていただきます。

時々、日本の新聞の世論調査やマスメディアの報道を通じて、国語に対する日本人の考え方を知る機会がありました。報道の主な内容は、過去に比べて現在の日本語が乱れていると思う日本人の割合が高くなっているということでした。私はその理由として、言葉遣いや国語力、あるいはカタカナ語使用など、様々なところから現在の日本語の問題点を取り上げられているからではないかと思いました。もちろん、言葉や言語というものは、その時代を映す鏡であって、変化すること自体が自然な現象であると考えられる見方もあると思いますが、問題点は、その変化の波が急激すぎることにあるのではないのでしょうか。例えば、現在でも生まれつつある新しいカタカナ語は、数え切れないほどあります。しかし、人々はそのような事を懸念し、自ら日本語に関心を持つようになり、それがいわゆる「日本語ブーム」につながるきっかけとなったと思います。

日本語に対しての日本人の興味や関心は、外国人である私の目から見ると非常に興味深いところがあります。それはまず、私の国と比べて異常とも言

えるほど数多いクイズ番組の存在でした。そういったクイズ番組では必ずといっていいほど日本語力や日本語に関する問題をとりあげている場合が多いです。もちろん、韓国にもそのようなクイズ番組はたしかに存在しますが、そもそも国語に関する問題は、日本と比べ物にならないほど少ないです。それに、視聴率の競争が激しい時間帯においても、日本のクイズ番組が放送されていることから、現在日本人がいかにかに日本語に興味と関心を持っているのかがよくわかる良い例であると思います。

しかし、日本人のそのような日本語愛とは別に、今の日本語の問題点もたしかに存在すると思います。それは先も述べたように、日本人の数多いカタカナ語の使用にあるのではないのでしょうか。テレビの番組で有名人が日本語に英語の単語を混ぜて話すのを時々見ることがあります。たとえば、「それは、大変シリアスな問題だな」、「デリカシーがないからね」などの発言を聞いた覚えがあります。「パス」や「タクシー」など、すでに定着してしまったカタカナ語に関しては仕方がないとしても、もともと存在するきれいな日本語までも、カタカナ語に変えて使用する必要があるのかと思ったことがあります。

そのような問題点もありながら、私としては今の日本人の日本語に対する興味や関心はとてもうらやましく、私の国の人たちにも学んでほしいところです。言葉や言語の変化は急激な世界化に伴う産物でもあり、世界のどの国においても起こっている現象だとすると、日本人の日本語愛は自らの言語を守ろうという意識の塊なのではないかと思えます。

私の夢

関西大学

総合情報学部総合情報学科

KIM JENNY (アメリカ)

(世話クラブ：枚方RC)



私は情報メディアとコンピュータープログラミングを勉強しているアメリカからの留学生です。子供の時からよくコンピューターに触れていたためその分野を専門にしました。そしてその勉強をしていながら色々と感じたことがあります。

現代社会はものすごいスピードで情報化が進行され、もはやユビキタス社会へと進化し、どんな場所でどんなことをしようとしてもコンピューターを使うという環境が当然のようなことになりました。

昔はコンピューターを通じて何かをしようとしても、その過程が複雑でいっそのこと直接手でやった方が早いかもしれないと思っていたことも思い出せます。

しかし、日増しに便利になっていくコンピューターインタフェースやユーザーの方に積もってきたコンピューターに接するノウハウがよいシナジー効果を起こしてコンピューターは自然に人間生活の一部に溶け込めたと感じます。

最近では全世界的にスマートフォンが大ヒットして、それこそ終日コンピューター機器と一緒に生活することが当然のようなことになりました。情報のネットワークはコンピューターの発展のおかげでものすごく早いスピードで回転し始め、現代人は自分が求める情報を取得し、活用して自らもまた新しい

情報源となることになっていきます。過去にはオフラインで行われていた政府や企業の多くの業務がオンライン化され、またネットで物を買ったり売ったりすることや海外のニュースをほぼリアルタイムで接することも今は普通のことになりました。このように、コンピューターが人間生活を便利にした例についてはいくら並べてもきりがなくらいです。

しかしながら、このような生活を全ての人が営んでいるわけではありません。何らかの障害を持っていて身体の不自由な方々やお年寄りの方など、いわゆるこの社会の弱者に分離できる方はコンピューター社会でも弱者になるしかありません。いくら操作が便利になったと言っても、それは一般人を基準としているからです。

私の夢はこのような方々のために、より簡単にコンピューターを使えるためのインタフェースの研究をしていくことです。身体の神経や眼球などの動きを捕らえてその人の思い通りにコンピューターを動かす技術、また脳の反応とコンピューターを連関付けてまるでテレパシーのようにコンピューターを操作する技術の研究して、身体的に不利な方々やお年よりの不便を最初化としたいと思っています。物理的な生活の不便を減らすために建物や道路の構造から配慮をするように、すべての人々が楽に生活していけるように少しでも役に立てたら本当に嬉しいと思います。

私の夢

滋慶学園大阪ハイテクノロジー専門学校

臨床工学技士科

李蒙 (中国)

(世話クラブ：大阪天満橋RC)



私は中国深センから来た留学生で、滋慶学園大阪ハイテクノロジー専門学校臨床工学技士科昼間部

(4年制)に在籍しています。現在4年生です。臨床工学技士は医師の指示を受けて、生命維持装置、例えば透析機器、人工呼吸器、人工心肺などを操作したり、日常の点検、保守を行ったりする仕事です。小さいころから科学に興味があり、中国の大学の医学部医療電子工学科に進学しました。在学中、SARSが発生し、私の地元である広州省は中国で一番被害を受けました。私はその時、SARSではありませんが、肺炎にかかり入院しました。そのとき、病院で

生命維持装置、特に人工呼吸器の操作、保守点検などをできる人が不足している現状を知りました。現場で働く医療人の様子を見ているうちに医療機器を操作し、管理するという職業の重要性を感じ、いつかこのような状況で、手助けができる医療人になりたいと夢見るようになりました。

中国では、日本の臨床工学技士のような医療機器を専門に扱う職業がありません。代わりに、看護師が3年程度一箇所の現場で働き、資格試験を受けて合格する事で、ようやく医療機器を扱うことができるようになります。そのような現状を見て、より専門的な知識

と技術を得たいと思い日本に留学し、臨床工学技士を目指して四年間勉強しています。勉強を重ねていくうちに臨床工学技士は医療機器だけと向き合う職業ではないことを知りました。チーム医療におけるメンバーと協力し合いお互いを高めあう関係を築く必要があります。もちろん、人はそれぞれ違う人生の目標を持ち、それに向かう方法も異なっていると思います。しかし、私たち医療人の目標は一つです。患者さんは家族のように大切な人であり、その命と心に向き合うべきだと考えています。

現在、院内で使用される医療機器が増加し、これ

らを使用する機会が増えてきています。そのため、医師や看護師がスムーズに仕事ができるようにする機械と人とを繋ぐ架け橋が必要です。それが臨床工学技士です。私はその様な医療チームでの仕事だけでなく、患者さんに対して熱心に接し、トラブルに対して冷静に判断できるような臨床工学技士になりたいと思っています。

現在、臨床工学技士の国家試験合格に向けて精一杯努力し、そして将来は日本の医療の一角をささえる臨床工学技士になりたいと考えています。

第一回ロータリー米山奨学生スピーチコンテスト大会優勝作品

心を開いて、勇気を出して、真の異文化理解へ

大阪大学大学院

言語文化研究科 言語文化学専攻

劉璐(中国)

(世話クラブ：大阪御堂筋RC)



皆さん、こんにちは。私は劉璐と申します。中国から来た留学生です。私の専攻は言語文化学なので、今日は言葉と文化の視点から私が日本留学で学んだことや感じたことなどをお話しさせていただきます。

私が日本に来たのは6年前です。最初の一年間は、日本人とうまくコミュニケーションを取りたくて、一生懸命日本語を勉強しました。そして徐々に言葉の意味が分かるようになりましたが、新しい疑問が浮かんできました。例えば、スーパーのアルバイトをしていた時、お客さんにお箸を渡すかどうかを聞くと、「いいです」の返事をもらって、それをOKだと思って、袋に割り箸を付けたらすごく怒られました。またある時、知り合いの日本人に「一緒に昼ごはんを食べに行きませんか」と誘われて、「今忙しいから行きません」と答えたら、「劉さんって冷たい人ですね」と言われました。その時の私はとても戸惑って、学校の先生に話したら、「多くの日本人ははっきり断ることも、断られることも好きではないから」と教えていただき、ようやく理解できました。このように、相手の国の言葉さえ分かればうまくコミュニケーションを取れるというわけにはいかないのです。特に日本社会では言わずとも察すること、つまり「以心伝心」という文化があって、外国人にとってなおさら難しく感じます。日本留学でもっとも感じたことはこの異文化理解の難しさだと思っています。

例えば私は今でも不思議と思う日本人の行動の一つがあります。それは電車に乗る時の座席の埋まり方です。最初に電車に入った二人は必ずと言ってよいほど、それぞれ座席の両端に座って、そして後から入ってくる人たちは順番に席を埋めていくと言う座り方です。一番に乗った人がいきなりど真ん中に座る人もあまり見ませんし、二番目に入った人

が一番目の人の隣に座ることも見ません。更に理解しがたいのは、混んでいる電車の中で、私の隣の隣の人が席を立つと、私の隣の人はすぐその空いている席に移りました。知らない人と距離を置きたい気持ちが分かりますが、混んでいる電車だから、結局すぐ他の人が隣に座ることになるでしょう。結果は一緒なのになぜこのような手間のかかることをするのかちょっと理解できません。最初にこのような行動をされた時、私は本当にショックでした。「えっ!?もしかして私が臭いの?」と思っていました。そこで更に考えてみてください。もし私の顔はアジア系ではなかったら、その時どんな思いをするのでしょうか。「はあ、私は外人だから、隣に座るのが嫌だったかな…」とってしまう可能性もあるでしょう。このように、異なる国同士の間には誤解がとてもしやすいものです。

そして、どうすれば異なる国の文化を正しく理解することができるか?まず大事なことは自分の国の常識を一旦捨てることではないでしょうか。例えば中国では、小さい頃から水道の水を飲んだり、生の野菜を食べたりしてはいけない、お腹を壊しますよと親から言われ続けてきました。しかし日本では、水道水を飲むことも、生野菜どころか生のお魚とお肉を食べることさえ普通です。私も最初、刺身を食べることに対してすごく抵抗がありましたが、思い切って食べてみたら、すぐ虜になってしまいました。もし私が中国での常識を捨てなかったら、たぶん一生刺身の美味しさが分からないでしょう。つまり「違い」にばかりに目を向けることは真の異文化理解とは言えません。たとえ言葉や習慣が違って、同じ人間ですから、きっと同じ何かを持っているはず。国籍や文化習慣の違いを忘れて、人間としての共通点を見つけることこそ真の異文化理解だと思っています。

皆さんもご存知の通り、現在、日本と中国の関係はとてもし冷や込んでいる状態です。このような状況だけ

からこそ、相手国の文化を正しく理解することがとても大事だと思います。もちろん、それは容易なことではありません。しかも現在、一部の日本人と中国人はマスメディアのネガティブな報道に影響されて、相手のことを理解しようと思わなくなっています。今まで中国人と話したこともなく、中国のことに対して特に関心を持っていなかった普通の日本人はテレビなどで見た中国に関するニュースだけで、中国と中国人が嫌いだなどと言い出して、更に中国人と接することも避けようと思っているようです。これは非常に悲しいことだと思っております。それは刺身を一口も食べずに刺身が嫌いだと言うような行為と同じではないでしょうか。テレビに映っている中国のイメージをいったん捨てて、身の

回りの中国人実際に話してみたり、付き合ってみて頂きたいのです。そしてマスコミにも他人の意見にも左右されず、自分の頭で考えて判断して頂きたいのです。もちろん中国人も同じです。

経済のグローバル化と共に現れるこの文化のぶつかり合いは日本と中国だけではなく、世界のどの国も抱えている問題と言えるでしょう。すでに他の国と関わらざるを得ない時代になっていますから、真の異文化理解を成すために、拒否して避けるのではなく、お互い心を開いて、そして勇気を出して、異なる文化や習慣にぶつかってみましょう！

私のスピーチは以上です。

ご静聴ありがとうございました。



ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2009年度会計収支決算報告書

2009年7月1日～2010年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	1,088,086	
特別補助金	700,000	2660地区
会報補助金	77,175	米山記念奨学会
会費収入	64,000	
總會収入	224,000	
總會補助金	78,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	267,400	
秋懇親会補助金	27,000	米山記念奨学会
春懇親会収入	76,000	
利息収入	329	
寄付金収入	5,000	磯田様
総計	2,606,990	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	191,538	
事務用品費	3,559	
交通費	17,840	
会報作成費	154,350	
寄付金支出	20,000	台湾水災
總會費用	380,610	
秋懇親会費用	784,029	
春懇親会費用	187,480	
通信費	28,420	
雑費	400	
次年度へ繰越金	838,764	銀行残高 769,578、手持現金 69,186
総計	2,606,990	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2010年7月18日)

会計監査報告:

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査: 荘園 福松 (2010年7月18日)

特別個人寄付に感謝いたします。

ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2010年度会計予算(案)

2010年7月1日～2011年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	838,764	
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
会費収入	60,000	
總會収入	230,000	
總會補助金	80,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	270,000	
秋懇親会補助金	30,000	米山記念奨学会
利息収入	500	
総計	1,613,264	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	150,000	
事務用品費	5,000	
交通費	20,000	
会報作成費	200,000	
總會費用	400,000	
秋懇親会費用	600,000	
通信費	30,000	
寄付金支出	20,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	178,264	
総計	1,613,264	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2010年7月18日)

相談コーナー

法律関係:	清河 雅孝 (キミカワ マサカ)	〒530-0047	大阪市北区天満1丁目8-9
税理関係:	荘園 福松 (ソエノ フクマツ)	〒530-0014	大阪市北区鶴野町4番 コープ野村梅田A-126
マーケティング関係:	大塚賢龍 (オツカ ケンリュウ)	〒532-0032	大阪市淀川区三津屋北1-6-20

学友消息(2009～2010年度)

(敬称略)

袁厚群	……	2011年本国(中国)で就職しました。
胡文静	……	2011年本国(中国)に帰国しました。
王曉婷	……	2011年本国(中国)に帰国しました。
ホー・トリン・レー・ ティエ・シュアン	……	2011年本国(ベトナム)に帰国しました。
張溯源	……	2011年結婚しました。おめでとうございます。

活動報告

活動は主に2660地区主催活動、学友会主催、参加したでございます。多数のご参加をお待ちしております。

2010年	
2010/07/18(日)	2010年度総会及び新規奨学生歓迎会
2010/07/18(日)	第一回役員会
2010/09/11(土)	第二回役員会
2010/10/30(土)	地区年次大会
2011年	
2011/01/15(土)	米山奨学会選考試験
2011/01/22(土)	役員新年会
2011/2/19(土)	第一回スピーチコンテスト
2011/2/27(日)	米山奨学生修了者歓送会
2011/03/05(土)	伊勢神宮日帰り懇親旅行
2011/4/11(月)	新規奨学生オリエンテーション

リンク集

ロータリー関係

(財)ロータリー米山記念奨学会
ロータリー・ジャパン・ウェブ
国際ロータリー 2660地区

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/index.html>
<http://www.rotary.or.jp/>
<http://www.ri2660.gr.jp/>

日本国内の米山学友関係

学友会 2600地区
学友会 2650地区
学友会 2680地区

<http://www.yoneyama-gakuyu.rid2600.org/>
<http://www.geocities.jp/yoneyama2650/syougakusei/s-frame.html>
<http://gakuyu.ri2680.org/index.html>

海外米山学友会関係

中華民國扶輪米山會 (台湾米山学友会)
韓國ROTARY米山記念奨學學友會(韓国米山学友会)
米山記念奨学会中国学友会(中国米山学友会)

<http://www.yoneyama.org.tw/>
<http://www.yoneyama.or.kr/>
<http://www.china-yoneyama.com.cn/>

学友会(関西) <http://ri2660k.memopad.org/>

編集後記

3月11日発生した地震ならびに津波により、東北関東地域は甚大な被害に遭われました。今回の地震ならびに津波により被害を受けた方々、ならびに避難生活を余儀なくされている多くの方々に心からお見舞い申し上げます。被災地の皆様方が一日も早く平穏な生活を取り戻せることを心からお祈り申し上げます。また被災地が一日も早く復帰できることを心からお祈り申し上げます。

募集要領 (2011年度会報)

米山学友会関西地区奨学生の皆様

本学友会の活動をまとめる会報第27号の入稿についてお願いいたします。

入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと」どちらかを選んでください。
字数・枚数	約1000字
内容	基本的には自由（エッセー、感想文なども可）です。 ※毎年研究レポートを提出される奨学生がいますが、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2011年10月30日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿はPCメールでの入稿をお願いします。※メールアドレス：yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学及び専攻、名前、国籍と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例：〇〇〇〇大学〇〇専攻 日本花子(日本)、世話クラブ：〇〇〇〇RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真(JEPG)も一緒にお送りください。出来ない場合、上記のメールアドレスまでご連絡下さい。



● 総会



● 地区大会



● 宝塚歌劇



● スピーチコンテスト



● 春懇親会(伊勢神宮)